

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

平成30(2018)年12月1日土曜日
(毎月1日発行) 1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



北総・茨城教区で特別授戒会

— 天台宗祖師先徳鑽仰大法会 —



▲ 叡南伝戒和上から「おかみそり」を、船戸羯磨師から仏舍利を受ける戒弟たち(茨城教区)



▶ 神妙な面持ちで、大樹伝戒和上から「おかみそり」を受ける戒弟(北総教区)

祖師先徳鑽仰大法会の一環として各教区で特別授戒会が奉修されている。去る10月20日に北総教区で、同21日に九州東教区で(前号既報)また、26日には茨城教区において、それぞれ特別授戒会が奉修された。

仏弟子となり「忘己利他」の実践を誓う

北総教区



檀信徒 245名が仏弟子となった

北総教区(弘海高顯宗務所長)の特別授戒会は10月20日、千葉県成田市の「ナリコーセレモニー寺台ホール」において奉修された。伝戒和上は大樹孝啓探題大僧正(書写山圓教寺住職)が勤め、戒弟は

茨城教区



厳肅な雰囲気の中授戒会に臨む

茨城教区は10月26日、筑西市の千妙寺で特別授戒会を厳修、155名が新たな仏弟子となった。開会式で中村純亮宗務所長は「信仰の心を醸成し、円満生活を送れる糧にして欲しい」と話した。なお随行員に獅子王圓明延曆寺副執行、羯磨師は宗議会議員の船戸俊宏如意輪寺住職がそれぞれ勤めた。

245名であった。

午前10時より開会となり、開会にあたって奉行である弘海宗務所長と小堀光實延曆寺執行が挨拶、続いて鈴木晃信説戒師(長福寺住職)より授戒にあたっての心構え、大事な事柄などについて説明がなされた。11時からの正授戒では、大樹伝戒和上が十二門戒儀を説示し、戒弟に「おかみそり」を授けた。また、羯磨師の秋田光兆観音寺住職、玉田法信東榮寺住職が仏舍利を授与した。なお、同授戒会の随行員は小堀延曆寺執行、随行員に浅野玄航天台宗参務、教授師は弘海厚久正徳寺住職、鈴木乘啓泉福寺住職がそれぞれ勤めた。

い」と述べ、随行長の杜多道雄宗務総長も「これからも精進を」と語りかけた。続いて説戒師の阿純孝宗機顧問が心構えを伝授。教授師の高山良彦延曆寺財務部主事より作法を聞いた後、伝戒和上の叡南覺範探題大僧正(毘沙門堂門跡門主)を迎え正授戒が営まれた。十二門戒儀を説示し、一人ひとりに「おかみそり」を授けた叡南伝戒和上は「日頃からお念仏を唱え、善を行い悪を止めて日々暮らしていることを祈念している」と話した。なお随行員に獅子王圓明延曆寺副執行、羯磨師は宗議会議員の船戸俊宏如意輪寺住職がそれぞれ勤めた。

極微

災害に悩まされた1年であった▼1、2月の頃は北陸などでの豪雪。西日本では32年ぶりの寒さを記録した。さらに4月に入ると、島根県西部地震(震度5強)、6月の大阪北部地震(震度6弱)と、地震が続いた。夏になると、7月は平成最悪の豪雨災害が発生している。8月には歴代最高気温を更新する猛暑となった。秋に至って9月には平成最強レベルの台風が襲来、さらに北海道で震度7の地震が勃発した▼「天災大國日本」の宿命といってしまうまでもだが、何とかならないものか、とつくづく思う。天災は地震のように予知できないもの、台風や豪雨などある程度予報できるものがあるが、どこかにせよ、その天災そのものをなくすることは、残念ながら出来ない▼天災という圧倒的な力に抗すべき力を持たない我々、人間である。出来る限りの備えをするしか手立てはない▼明治29年に起こった「明治三陸地震津波」を詠んだ正岡子規の句に「若葉して海神怒る何事ぞ」というのがある。目にも優しい若葉という自然の美しさの一方、荒々しい残忍な自然である津波、この対立する現象に対しては我々は呆然と立ちすくむしかない。理不尽だが「何事ぞ」というしかないのだ。悲しく無力である。しかし、我々は勇気を振り絞って、ここから何度でも立ち上がるしかない。